

単体財務諸表

当行の財務諸表は、会社法第396条第1項の規定及び金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、有限責任 あずさ監査法人の監査証明を受けております。

①貸借対照表 (資産の部)

(単位：百万円)

科 目	第136期末 (平成29年3月31日)	第137期末 (平成30年3月31日)
現金預け金	805,567	777,658
現 金	36,883	36,767
預 け 金	768,684	740,890
コールローン	190,556	141,250
買入金銭債権	21,578	27,106
商品有価証券	2,344	1,827
商品国債	839	313
商品地方債	1,504	1,514
金銭の信託	15,000	25,000
有価証券	2,714,686	2,620,862
国 債	906,446	853,645
地 方 債	563,500	678,176
社 債	325,169	361,753
株 式	169,088	182,221
その他の証券	750,481	545,065
貸 出 金	4,400,376	4,676,114
割引手形	28,032	31,884
手形貸付	104,239	102,761
証書貸付	3,829,477	4,036,242
当座貸越	438,626	505,226
外 国 為 替	6,468	7,949
外国他店預け	5,142	6,526
買入外国為替	115	56
取立外国為替	1,210	1,366
そ の 他 資 産	50,797	113,605
前払費用	152	5,296
未収収益	10,001	8,761
先物取引差入証拠金	1,165	823
金融派生商品	13,971	11,984
金融商品等差入担保金	6,100	4,117
その他の資産	19,406	82,621
有 形 固 定 資 産	41,372	39,682
建 物	13,208	12,603
土 地	20,349	20,199
リ ー ス 資 産	2,958	2,575
建設仮勘定	68	34
その他の有形固定資産	4,787	4,269
無 形 固 定 資 産	7,449	5,834
ソフトウェア	—	5,742
ソフトウェア仮勘定	7,359	—
その他の無形固定資産	90	92
支払承諾見返	34,024	34,087
貸倒引当金	△34,763	△31,432
資 産 の 部 合 計	8,255,459	8,439,546

①貸借対照表
(負債及び純資産の部)

(単位：百万円)

科 目	第136期末 (平成29年3月31日)	第137期末 (平成30年3月31日)
預 金	6,201,889	6,423,654
当 座 預 金	257,240	295,749
普 通 預 金	3,619,240	3,867,768
貯 蓄 預 金	130,947	122,201
通 知 預 金	63,002	27,015
定 期 預 金	2,002,092	1,964,656
定 期 積 金	87	—
そ の 他 の 預 金	129,277	146,263
譲 渡 性 預 金	222,960	222,425
コ ー ル マ ネ ー	149,292	57,928
売 現 先 勘 定	21,507	71,568
債券貸借取引受入担保金	832,391	747,270
コマーシャル・ペーパー	24,206	46,157
借 用 金	181,801	188,524
借 入 金	181,801	188,524
外 国 為 替	135	223
売 渡 外 国 為 替	74	170
未 払 外 国 為 替	61	53
信 託 勘 定 借	155	1,575
そ の 他 負 債	49,154	83,462
未 払 法 人 税 等	3,066	2,290
未 払 費 用	3,778	3,880
前 受 収 益	1,787	1,425
給 付 補 填 備 金	0	—
先 物 取 引 差 金 勘 定	—	0
金 融 派 生 商 品	25,075	14,752
リ ー ス 債 務	2,940	2,557
金 融 商 品 等 受 入 担 保 金	2,700	3,159
そ の 他 の 負 債	9,806	55,396
賞 与 引 当 金	1,300	1,269
退 職 給 付 引 当 金	20,066	19,544
睡眠預金払戻損失引当金	1,063	1,383
ポ イ ン ト 引 当 金	63	76
繰 延 税 金 負 債	12,603	16,972
支 払 承 諾	34,024	34,087
負 債 の 部 合 計	7,752,615	7,916,123
資 本 金	15,149	15,149
資 本 剰 余 金	6,286	6,286
資 本 準 備 金	6,286	6,286
利 益 剰 余 金	406,741	415,140
利 益 準 備 金	15,149	15,149
そ の 他 利 益 剰 余 金	391,592	399,991
特 別 償 却 準 備 金	3	1
固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	523	530
別 途 積 立 金	361,600	373,600
繰 越 利 益 剰 余 金	29,464	25,858
自 己 株 式	△12,116	△7,400
株 主 資 本 合 計	416,061	429,175
その他有価証券評価差額金	92,507	98,976
繰 延 ヘ ッ ジ 損 益	△6,086	△4,998
評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	86,421	93,977
新 株 予 約 権	361	269
純 資 産 の 部 合 計	502,843	523,422
負 債 及 び 純 資 産 の 部 合 計	8,255,459	8,439,546

②損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第136期 (平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)	第137期 (平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)
経常収益	125,036	116,499
資金運用収益	78,762	80,016
貸出金利息	42,891	47,027
有価証券利息配当金	34,962	31,545
コールローン利息	307	813
預け金利息	375	374
その他の受入利息	226	254
信託報酬	1	1
役務取引等収益	19,438	18,910
受入為替手数料	5,712	5,669
その他の役務収益	13,725	13,240
その他業務収益	13,675	4,432
商品有価証券売買益	9	—
国債等債券売却益	13,536	3,827
金融派生商品収益	126	603
その他の業務収益	2	1
その他経常収益	13,159	13,138
貸倒引当金戻入益	291	1,778
償却債権取立益	12	5
株式等売却益	9,937	6,888
金銭の信託運用益	67	85
その他の経常収益	2,850	4,380
経常費用	96,068	88,567
資金調達費用	11,006	13,759
預金利息	1,791	1,928
譲渡性預金利息	89	60
コールマネー利息	2,436	1,374
売現先利息	101	1,584
債券貸借取引支払利息	2,354	1,474
コマーシャル・ペーパー利息	48	779
借入金利息	572	1,237
金利スワップ支払利息	3,290	5,311
その他の支払利息	323	8
役務取引等費用	4,225	4,301
支払為替手数料	902	919
その他の役務費用	3,323	3,382
その他業務費用	16,677	8,190
外国為替売買損	1,101	1,873
商品有価証券売買損	—	8
国債等債券売却損	15,575	6,308
営業経費	56,598	57,565
その他経常費用	7,560	4,749
株式等売却損	2,928	2,450
株式等償却	2,628	—
金銭の信託運用損	88	118
その他の経常費用	1,914	2,179
経常利益	28,968	27,931
特別利益	3	14
固定資産処分益	3	14
特別損	466	209
固定資産処分損	52	61
減損損失	414	148
税引前当期純利益	28,505	27,736
法人税、住民税及び事業税	8,688	7,218
法人税等調整額	776	1,107
法人税等合計	9,465	8,326
当期純利益	19,039	19,409

③株主資本等変動計算書

第136期 平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位:百万円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	15,149	6,286	6,286
当期変動額			
特別償却準備金の取崩			
剰余金の配当			
別途積立金の積立			
当期純利益			
自己株式の取得			
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			
当期変動額合計	—	—	—
当期末残高	15,149	6,286	6,286

(単位:百万円)

	株主資本							自己株式	株主資本 合計
	利益剰余金								
	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金 合計			
特別償却 準備金		固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金					
当期首残高	15,149	5	523	347,600	28,302	391,580	△7,915	405,100	
当期変動額									
特別償却準備金の取崩		△1			1	—		—	
剰余金の配当					△3,878	△3,878		△3,878	
別途積立金の積立				14,000	△14,000	—		—	
当期純利益					19,039	19,039		19,039	
自己株式の取得							△4,200	△4,200	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)									
当期変動額合計	—	△1	—	14,000	1,162	15,160	△4,200	10,960	
当期末残高	15,149	3	523	361,600	29,464	406,741	△12,116	416,061	

(単位:百万円)

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等 合計		
当期首残高	113,030	△6,761	106,268	308	511,677
当期変動額					
特別償却準備金の取崩					—
剰余金の配当					△3,878
別途積立金の積立					—
当期純利益					19,039
自己株式の取得					△4,200
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△20,522	675	△19,847	52	△19,794
当期変動額合計	△20,522	675	△19,847	52	△8,834
当期末残高	92,507	△6,086	86,421	361	502,843

第137期 平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

(単位:百万円)

	株主資本		
	資本金	資本剰余金	
		資本準備金	資本剰余金合計
当期首残高	15,149	6,286	6,286
当期変動額			
特別償却準備金の取崩			
固定資産圧縮積立金の積立			
剰余金の配当			
別途積立金の積立			
当期純利益			
自己株式の取得			
自己株式の処分			
自己株式の消却			
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)			
当期変動額合計	—	—	—
当期末残高	15,149	6,286	6,286

(単位:百万円)

	株主資本							自己株式	株主資本 合計
	利益剰余金								
	利益準備金	その他利益剰余金				利益剰余金 合計			
特別償却 準備金		固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金					
当期首残高	15,149	3	523	361,600	29,464	406,741	△12,116	416,061	
当期変動額									
特別償却準備金の取崩		△1			1	—		—	
固定資産圧縮積立金の積立			6		△6	—		—	
剰余金の配当					△3,832	△3,832		△3,832	
別途積立金の積立				12,000	△12,000	—		—	
当期純利益					19,409	19,409		19,409	
自己株式の取得							△2,601	△2,601	
自己株式の処分					△34	△34	172	138	
自己株式の消却					△7,143	△7,143	7,143	—	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)									
当期変動額合計	—	△1	6	12,000	△3,606	8,398	4,715	13,114	
当期末残高	15,149	1	530	373,600	25,858	415,140	△7,400	429,175	

(単位:百万円)

	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	92,507	△6,086	86,421	361	502,843
当期変動額					
特別償却準備金の取崩					—
固定資産圧縮積立金の積立					—
剰余金の配当					△3,832
別途積立金の積立					—
当期純利益					19,409
自己株式の取得					△2,601
自己株式の処分					138
自己株式の消却					—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	6,468	1,087	7,555	△91	7,464
当期変動額合計	6,468	1,087	7,555	△91	20,578
当期末残高	98,976	△4,998	93,977	269	523,422

第137期（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）

注記事項

〔重要な会計方針〕

〔1〕 商品有価証券の評価基準及び評価方法

商品有価証券の評価は、時価法（売却原価は移動平均法により算定）により行っておりす。

〔2〕 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法（定額法）、子会社株式及び関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券については、原則として決算日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、全部純資産直入法により処理しております。

(2) 有価証券運用を主目的とする単独運用の金銭の信託において信託財産として運用されている有価証券の評価は、時価法により行っております。

〔3〕 デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引の評価は、時価法により行っております。

〔4〕 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

有形固定資産は、建物については定率法（その他は法人税法に基づく定率法）を採用しております。また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 4年～40年
その他 2年～20年

(2) 無形固定資産

無形固定資産の減価償却は、定額法により償却しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とした定額法により償却しております。なお、残存価額については、リース契約上に残価保証の取り決めがあるものは当該残価保証額とし、それ以外のものは零としております。

〔5〕 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建資産・負債及び海外支店勘定は、決算日の為替相場による円換算額を付しております。

〔6〕 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準により、次のとおり計上しております。
「銀行等金融機関の資産の自己査定並びに貸倒償却及び貸倒引当金の監査に関する実務指針」（日本公認会計士協会銀行等監査特別委員会報告第4号 平成24年7月4日）に規定する正常先債権及び要注意先債権に相当する債権については、一定の種類毎に分類し、過去の一定期間における各々の貸倒実績から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。破綻懸念先債権に相当する債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち必要と認められる額を計上しております。

破綻懸念先及び貸出条件緩和債権等を有する債務者で、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額が一定額以上の大口債務者のうち、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる債権については、当該キャッシュ・フローを貸出条件緩和実施前の約定利率で割引いた金額と債権の帳簿価額との差額を貸倒引当金とする方法（キャッシュ・フロー見積法）により計上しております。

破綻先債権及び実質破綻先債権に相当する債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額を計上しております。なお、特定海外債権については、対象国の政治経済情勢等に起因して生ずる損失見込額を特定海外債権引当勘定として計上することとしております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業関連部署が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

(2) 賞与引当金

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当事業年度に帰属する額を計上しております。

(3) 退職給付引当金

退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、必要額を計上しております。また、退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については給付算定式基準によっております。なお、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

・過去勤務費用

企業年金制度にかかるとのについて、発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を発生した事業年度から損益処理

・数理計算上の差異

各事業年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生した事業年度から損益処理

(4) 睡眠預金払戻損失引当金

睡眠預金払戻損失引当金は、負債計上を中止し、利益計上を行った睡眠預金の払戻請求に備えるため、過去の払戻実績率に基づき計上しております。

(5) ポイント引当金

ポイント引当金は、クレジットカード会員に付与したポイントの使用により発生する費用負担に備えるため、過去の使用実績率に基づき計上しております。

〔7〕 ヘッジ会計の方法

(1) 金利リスク・ヘッジ

金融資産・負債から生じる金利リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、相場変動を相殺するヘッジについて、ヘッジ対象となる貸出金及び有価証券とヘッジ手段である金利スワップ取引等を一定の（残存）期間毎にグルーピングのうえ特定し評価しております。

(2) 為替変動リスク・ヘッジ

外貨建金融資産・負債から生じる為替変動リスクに対するヘッジ会計の方法は、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日）に規定する繰延ヘッジによっております。ヘッジ有効性評価の方法については、外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを軽減する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引等をヘッジ手段とし、ヘッジ対象である外貨建金銭債権債務等に見合うヘッジ手段の外貨ポジション相当額が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価しております。

また、外貨建その他有価証券（債券以外）の為替変動リスクをヘッジするため、事前にヘッジ対象となる外貨建有価証券の銘柄を特定し、当該外貨建有価証券について外貨ベースで取得原価以上の直先負債が存在していること等を条件に包括ヘッジとして時価ヘッジを適用しております。

〔8〕 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等に係る会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。ただし、有形固定資産に係る控除対象外消費税等は当事業年度の費用に計上しております。

〔貸借対照表関係〕

1. 関係会社の株式又は出資金の総額

株式 8,882百万円
出資金 831百万円

2. 元本補てん契約のある信託の元本金額は次のとおりであります。

金銭信託 1,477百万円

3. 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。

破綻先債権額 3,881百万円
延滞債権額 50,956百万円

なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込がないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。

また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。

4. 貸出金のうち3ヵ月以上延滞債権額は次のとおりであります。

3ヵ月以上延滞債権額 1,509百万円

なお、3ヵ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。

5. 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。

貸出条件緩和債権額 14,819百万円

なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄、その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3ヵ月以上延滞債権に該当しないものであります。

6. 破綻先債権額、延滞債権額、3ヵ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。

合計額 71,168百万円

なお、上記3. から6. に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。

7. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」（日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日）に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた商業手形及び買入外国為替は、売却又は（再）担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は、次のとおりであります。

31,940百万円

8. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産
有価証券 1,076,542百万円
その他資産 80百万円

計 1,076,623百万円

担保資産に対応する債務
債券貸借取引受入担保金 747,270百万円
借入金 179,097百万円

売現先勘定 71,568百万円
預金 15,686百万円

上記のほか、日本銀行当座貸越契約、為替決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

有価証券 82,651百万円
商品有価証券 115百万円

また、その他の資産には中央清算機関差入証拠金及び保証金が含まれており、その金額は次のとおりであります。

中央清算機関差入証拠金 30,666百万円
保証金 563百万円

9. 当座貸越契約及び貸付金等に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度まで資金を貸付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高 1,532,196百万円

うち原契約期間が1年以内のもの
（又は任意の時期に無条件で取消可能なもの） 1,416,598百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも当行の将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、当行が実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができるとの条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている行内手続きに基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

10. 有形固定資産の圧縮記帳額

圧縮記帳額 5,082百万円
（当該事業年度の圧縮記帳額）
（一百万円）

11. 「有価証券」中の「社債」のうち、有価証券の私募（金融商品取引法第2条第3項）による社債に対する保証債務の額

88,811百万円

〔損益計算書関係〕

1. 営業経費には、次のものを含んでおります。	
給与・手当	21,461百万円
2. 固定資産処分益の内容は次のとおりであります。	
土地	12百万円
建物	1百万円
動産	0百万円
計	14百万円
3. 固定資産処分損の内容は次のとおりであります。	
建物	44百万円
動産	13百万円
土地	3百万円
その他	0百万円
計	61百万円

〔有価証券関係〕

時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式（出資）及び関連会社株式（出資）

	貸借対照表計上額（百万円）
子会社株式（出資）	9,691
関連会社株式（出資）	23
合計	9,714

〔税効果会計関係〕

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	
繰延税金資産	
貸倒引当金	8,975百万円
退職給付引当金	7,188百万円
減価償却費	5,523百万円
その他有価証券評価損	2,598百万円
繰延ヘッジ損	2,295百万円
有価証券評価減	1,423百万円
固定資産減損損失	1,061百万円
賞与引当金	444百万円
ソフトウェア	372百万円
その他	1,296百万円
繰延税金資産小計	31,179百万円
評価性引当額	△2,621百万円
繰延税金資産合計	28,557百万円
繰延税金負債	
その他有価証券評価益	△45,169百万円
固定資産圧縮積立金	△232百万円
繰延ヘッジ益	△101百万円
有価証券みなし譲渡損	△25百万円
特別償却準備金	△0百万円
繰延税金負債合計	△45,529百万円
繰延税金資産（△負債）の純額	△16,972百万円
2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主な項目別の内訳	
法定実効税率	—%
（調整）	
交際費等永久に損金算入されない項目	—%
受取配当等永久に益金に算入されない項目	—%
評価性引当額	—%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	—%
その他	—%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	—%

（注）当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が、法定実効税率の100分の5以下であるため、注記を省略しております。

〔重要な後発事象〕

自己株式の取得

資本効率の向上を通じて株主の皆さまへの利益還元を図るため、平成30年5月10日開催の取締役会において、普通株式上限1,000千株、取得価額の総額1,000百万円の市場買付による自己株式の取得を決議し、平成30年5月28日までに778千株を999百万円で取得しました。